

# 赤れんが通信



第 65号

令和 2年 6月 29日

編集発行人 国際交流員 金昭賢

ここ最近、日本では様々な試みが行われています。多くの企業はテレワークを取り入れ、政府では根強い「はんこ文化」を見直す動きまでありました。また、「オンライン飲み会」の活性化により、社員同士の親睦を深める各種オンラインミーティングの費用を補助する企業もあるということで、何か月の間に急激な変化があったような気がします。今、皆さんがご覧になるこの赤れんが通信も在宅勤務で生まれたものです！

## 北海道は今...

### ポストコロナ時代に備える 新北海道スタイル



新型コロナウイルスの影響で、我々の生活は昔のような形には戻れないと言われていました。しかし、長引くコロナウイルス事態の中でも、経済活動を続けなければならないため、感染拡大の防止と経済活動を並行する新しい生活様式を導入する必要性が出てきました。

そのため、北海道では「新北海道スタイル」という取組が示されました。「新北海道スタイル」は、我々の生活と密接に関わるライフスタイルやビジネススタイルを変えることであり、手洗いや咳エチケットに取り組むこと、施設設備の消毒・洗浄や換気を定期的に行うこと、職員の健康管理を徹底すること、社会的距離を保つことなどの取組事項が含まれています。

私の職場にも変化がありました。飛沫の拡散を防ぐために、透明な衝立をデスクに設置することをはじめ、職員は会議の際に座席の間隔を保ち、マスクを着用するなど、自分と大切な人の健康を守るため、皆で細心の注意を払っています。

## 地域活性化に向けた様々な努力

観光業や農業、食品加工業が経済規模の大きな割合を占める北海道も、地域経済に新型コロナウイルスの影響の直撃を受けました。外部との交流が激減し、観光客の数が大幅に減少したことがその原因です。

新千歳空港から外国への行き来ができなくなったのは、ずいぶん前からのものであり、ゴールデンウィーク期間の国内線の予約率も1桁に過ぎなかったと言われます。このような状況の中で、各自治体は停滞している地域経済を活性化させる方法に悩んでいます。

その中でも、オンライン販売はコロナウイルスのクラスター感染を誘発

する「3密(密閉、密集、密接)」リスクなしに、地域の商品を流通できる手段として注目されています。

今年は、毎年3月～5月頃に全国の百貨店などで多くの人を集めていた北海道物産展もオンラインで開催されています。ここで販売されているセット商品の中には、手元に届くまで中身が分からないにもかかわらず、販売開始から1週間で約1万件以上の注文が殺到したものもあるそうです。

また、観光客にもよく知られている北海道の人気お土産「白い恋人」を製造する石屋製菓は、オンラインショップで「白い恋人で北海道にエール! BOX」を販売し、たった1日

で完売になるほど大変な人気を集めました。

道でも、世界から信頼される北海道の食品ブランドを広報し、食品関連企業の販路を確保するために、農水産物や乳製品、お酒などを紹介することに力を入れています。

北海道という地域と、この地域の色々な食べ物を好んでいる方々がたくさんいて、私も北海道に、さらに愛着が湧いてくるような気がします。



最近、様々な所から「エール」という単語がよく聞こえてきます。これは「声援・応援」を意味する英単語「Yell」を日本式に読んだものです。新型コロナウイルスで危機にさらされた全国各地に声援を送る意味で使われていると考えられます。

さらに、地域活性化と関係がある「ふるさと納税」についても話してみたいと思います。「ふるさと納税」は地域間の税収格差を解消し、地方経済の活性化を図るための制度です。寄附者は本人が応援したい自治体に寄附をし、地域の教育、観光振興、スポーツ及び文化振興など、その用途を選択することもできます。以前は、たくさんの寄附金を誘致しようとする自治体によって、返礼品の過熱競争がありました。しかし、今は返礼品を地場産品に限るなどの制度改正がなされ、寄附額に対する返礼品の金額も3割以下に規制されました。



◀新型コロナウイルスと戦う  
北海道の医療従事者

北海道の人気返礼品にはカニ、イクラ、エビ、メロンなどがあります。



エールを北のチカラに。  
ほっかいどう  
応援団会議

韓国には、このような制度がまだ導入されていませんが、地域経済に活力を与え、自治体の広報にも繋がるという点でとても有益だと思います。

道では、北海道の様々な課題を解決していくために、地域への愛と想いを基に北海道を応援する活動に参加を希望する方々を集め、「ほっかいどう応援団会議」を立ち上げました。また、新型コロナウイルスで厳しい状況に置かれた北海道の地域医療を守る「ふるさと寄附金」の募集を始めました。開始からわずか2週間で1億円を突破したこの寄附金は、医療従事者を支援し、医療用資機材を整備することに使われる予定です。苦しい時に力を合わせて危機を打開するのは、日本も韓国も同じですね。

## 独特のナンバープレート

日本には「ご当地」という単語がつく商品がたくさんあります。ラーメン、ビール、温泉など「ご当地」はある地域に由来し、その地域のオリジナリティが表れる物を指します。旅行する時に、各地域の記念品ショップに入ってみると、地域の特色を活かした色々な商品が陳列されていて、このようなマーケティングが発展しているとわかります。

さらに、自動車のナンバープレートも地域ごとのバージョンが存在しています。今年是全国17地域のナンバープレートが新たに登場し、道内では初めて「知床」と「苫小牧」地名のご当地ナンバープレートができました。このナンバープレートの交付は5月11日から始まりました。



▲知床、苫小牧地域のナンバープレート

## 朝が早い北海道

私は4月から時差出勤をしているので、早起きの習慣が身につきました。韓国では午前4時半ぐらいたと、外はまだ暗いですが、ここは明るいので目が覚めたらすっきりした気持ちになります。特に札幌は、今まで私が旅行してみた日本国内の他の地域よりも朝が早い気がしますが、日の出の情報を調べてみたところ、それは気のせいではありませんでした！

札幌日の出・日没情報（2020年6月15日現在）

日の出の時間：午前3時55分

日の暮れる時間：午後7時16分

このような地域的特徴があるので、夏に北海道に来たら、朝早くから車に乗って旅に出ると充実した日帰り旅行ができます。それでは、道内で一番早く日が昇る場所はどこでしょう？気になって検索をしてみたら、根室半島にある「納沙布岬」という場所だそうです。ここにもいつか行ってみたいです！



✓ 赤れんが通信  
バックナンバー  
韓国版はこちら



✓ 北海道観光  
振興機構は  
こちら



✓ 編集・発行 北海道 総合政策部 国際局 国際課  
北海道札幌市中央区北3条西6丁目  
TEL : +81-11-231-4111 FAX : +81-11-232-4303